

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第 1 学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	人体の構造について広く理解し、医学(解剖学分野)用語に慣れ親しむ
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかける事
11. 教科書	『解剖学 第 2 版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第 4 版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第 7 版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂 3 版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第 1 章 人体の構成	解剖学概論（人体の構成・区分と方向）
2	第10章 運動器(骨学)	下肢帯の骨（寛骨：腸骨・恥骨・坐骨）と骨盤
3	第10章 運動器(骨学)	自由下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）と関節
4	第10章 運動器(骨学)	自由下肢骨（足根骨・中足骨・趾骨）と関節
5	第 1 章 人体の構成	組織学概論（細胞学概論・組織分類）
6	第 1 章 人体の構成	組織学各論（上皮組織）
7	第 1 章 人体の構成	組織学各論（筋組織・神経組織）
8		中間試験
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9	第 1 章 人体の構成	組織学各論（結合組織・支持組織）
10	第 1 章 人体の構成	組織学各論（細胞間結合と細胞分裂）
11	第6章 生殖器系	生殖器器官の一部（生殖細胞・減数分裂）
12	第6章 生殖器系	発生学とは・発生に関わる用語（排卵・受精・卵割・着床・月経）
13	第6章 生殖器系	各胚葉からの分化
14	第6章 生殖器系	胎盤の構造
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第1 学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい 生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。到達目標 専門基礎分野の『生理学』の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『いちばんやさしい生理学』加藤尚志 他著 成美堂出版
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	イントロダクション	生理学とは
2	第1章 生理学の基礎	生理機能の特徴 ・ 細胞の構造と機能
3	第1章 生理学の基礎	細胞の構造と機能 ・ 物質代謝
4	第1章 生理学の基礎	体液の組成と働き ・ 物質移動
5	第10章 神 経	ニューロンの構造と働き ・ 神経線維の興奮伝導
6	第10章 神 経	神経線維の興奮伝導 ・ シナプス伝達
7	第10章 神 経	中枢神経系の分類と機能
8		中間試験
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9	第10章 神 経	反射 ・ 脊髄 ・ 脳幹 ・ 小脳
10	第10章 神 経	視床 ・ 視床下部 ・ 大脳 ・ 脳脊髄液
11	第10章 神 経	末梢神経系 ・ 自律神経系
12	第11章 筋	骨格筋の構造と働き ・ 筋の収縮の仕組み
13	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み
14	第11章 筋	心筋と平滑筋
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	健康科学
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	小児から高齢者にいたるまで体や心がどのような変化をしていくのかを学び、各世代のスポーツの楽しみ方や関わり方について理解します。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでけますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『体力学』中谷敏昭編 化学同人、『新・スポーツ医学』藤本繁夫ら編 嵯峨野書院
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト：共通科目Ⅰ・Ⅲ

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、健康とは
2	第2回	スポーツと健康
3	第3回	体力とは1
4	第4回	体力とは2
5	第5回	健康と体力の関係1
6	第6回	健康と体力の関係2
7	第7回	健康と体力の関係3
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
8	第8回	中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9	第9回	体力テストの方法
10	第10回	体力の発育発達1
11	第11回	体力の発育発達2
12	第12回	子供に必要な運動刺激
13	第13回	幼少年期に必要な運動
14	第14回	行動を起こす体力の加齢変化
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15	第15回	期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	コミュニケーション
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	1年生の「健康科学」で学習したことを基礎として、各世代に起こりやすいスポーツのケガや予防のためのトレーニング方法、そして具体例として腰部のアスレティックリハビリテーションを詳しく学習します。また、スポーツをコミュニケーションツールの1つとして活用する方策を模索し、具体的な方法について学生が実践できる力を身につけます。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語ができますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『子どもを輝かせるスポーツコミュニケーションスキル』山口文子 体育とスポーツ出版社、『スポーツコミュニケーション』東海林祐子
13. 推薦参考図書	『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』伊藤マモル監修 日本文芸社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、スポーツによって起こるケガ
2	第2回	スポーツ障害 1
3	第3回	スポーツ障害 2
4	第4回	予防のためのトレーニング
5	第5回	腰部のアスレティックリハビリテーション1
6	第6回	腰部のアスレティックリハビリテーション2
7	第7回	スポーツコミュニケーション
8	第8回	総復習
9	第9回	中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10	第10回	学生発表 1、年齢に応じた指導
11	第11回	学生発表 2、効果的なほめ方
12	第12回	学生発表 3、効果的な叱り方
13	第13回	学生発表 4、やるきの育て方
14	第14回	学生発表 5、目標達成シート1
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15	第15回	期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第 1 学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	教科書を中心として、参考書や補足の図の資料を配布し、PCでPowerPointソフトを使って講義します。授業途中で小テストする場合があります。
8. 授業の目標	カラダを支える役目のある骨と骨に存在する各部位の名称、骨に付着し骨を動かす役割のある筋の名称やそれらの走行と筋肉が収縮した時に起こる動作の違い、それらを支配している神経などについて理解し、他の科目で使える知識を身につける
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	学習量が多いのでしっかりと復習してください。聞きなれない、書きなれない単語が多いです。積極的に復習してください。
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯 貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『骨学のすゝめ』中野 隆 著 南江堂 『読んでわかる解剖生理学』 竹内 修二著 医学教育出版社 『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		骨学概論（骨の基本構造・種類・関節の種類）
2		上肢帯の骨（鎖骨・肩甲骨）、自由上肢の骨（上腕骨・前腕の骨）
3		自由上肢の骨（手の骨）、上肢の関節
4		筋組織の概論、運動様式について
5		上肢（上腕）の筋・運動
6		上肢の（前腕）筋・運動
7		下肢帯、大腿、下腿の筋・運動
①	統合教育科目 I	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9		足の筋・下腿の局所解剖
10		体幹の骨（胸郭・脊柱【頸椎】
11		体幹の骨（胸椎～仙骨）と胸郭の構造
12		体幹（胸腹部・腰背部）の筋・運動
13		頭蓋骨（眼窩、鼻腔など）
14		頭蓋骨の筋・運動
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	第1学年の解剖学、生理学で学習した人体の構造・機能を念頭に置いて、まだ終えてない範囲(神経系・感覚器系)との関係性を整理しつつ、理解を深める。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかける事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯 貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		1年次の解剖学領域の確認と2年次の解剖学の進行予定
2	第8章 神経系	神経系概要（神経組織の構成確認）
3	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳脊髄共通の構造(脳室系・髄膜・脳脊髄液)
4	第8章 神経系	神経系(中枢)；脊髄の構造の確認と各分節の構造における特徴
5	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳部位の確認と終脳における核・白質の特徴
6	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳幹・小脳における核・白質の特徴
7	第8章 神経系	神経系(末梢)；脳神経の構成とそれぞれの走行
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第7章 神経系	神経系(末梢)；脊髄神経の構成と脊髄神経後枝について
10	第8章 神経系	神経系(末梢)；脊髄神経前枝と神経叢(頸神経叢・腕神経叢)
11	第9章 神経系	神経系(末梢)；神経叢(頸神経叢・腕神経叢)
12	第8章 神経系	伝導路(運動伝導路・体性感覚伝導路)
13	第9章 感覚器系	視覚・聴覚・平衡覚の受容器の構造
②	第9章 感覚器系	味覚・嗅覚・一般感覚受容器の構造と感覚伝導路
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅳ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	これまでに得た知識の整理し、苦手範囲抽出と更なる人体構造の理解を目指す。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に講義範囲を復習し、疑問点のある程度まとめておく事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		解剖学領域の国家試験の傾向と対策概要
2	第1章 人体の構成	国家試験の傾向と対策（組織学）
3	第6章 生殖器系	国家試験の傾向と対策（発生学）
4	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－骨・関節－）
5	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－筋・運動様式－）
6	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－心臓・動脈－）
7	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－静脈・胎児循環－）
8	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－リンパ系－）
9	第3章 呼吸器系	国家試験の傾向と対策（呼吸器）
10	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化管－）
11	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化腺－）
12	第5・6章 泌尿生殖器系	国家試験の傾向と対策（泌尿器・生殖器）
13	第8章 神経系	国家試験の傾向と対策（神経）
14	第9章 感覚器系	国家試験の傾向と対策（感覚器）
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第1 学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	武本 泰
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体の諸器官の機能を、当該学期では、特に血液、循環、呼吸、消化・吸収の基本について習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くため、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がけてください。
11. 教科書	生理学，東洋療法学校協会，医歯薬出版
12. 副読本	いちばんやさしい生理学，南沢 享，成美堂
13. 推薦参考図書	人体の構造と機能，放送大学教材

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第2章・血液	ガイダンス、血液総論
2	第2章・血液	赤血球総論、赤血球の形状と数、必要成分、一生、溶血、貧血
3	第2章・血液	白血球、血小板、血漿の成分と働き
4	第2章・血液	止血のメカニズム、血液型
5	第2章・循環	循環総論、心臓の構造と働き、刺激伝道系
6	第2章・循環	心周期、心音、心電図
7	第2章・循環	血管系、血圧
8	第2章・循環	循環調節、リンパ系
9	中間試験	
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
10	第3章・呼吸	呼吸総論、換気とガス交換、ガス運搬
11	第3章・呼吸	呼吸運動
12	第3章・呼吸	呼吸調節、呼吸の異常
13	第4章・消化と吸収	消化と吸収総論、各栄養素の消化と吸収、消化酵素
14	第4章・消化と吸収	消化管の運動、消化液、吸収、摂食の調節
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学総論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第2 学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	適切な施術に向けて必要な医療面接技法や診察法、症候にかかわる知識を習得することを目的とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3 分の2 以上の出席で受験資格を得る。配布資料は再配布はしないので管理をして下さい。
11. 教科書	『臨床医学総論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『フィジカルアセスメントがみえる』メディック メディア 『臨床医学各論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『診察と手技がみえる vol.1 第2版』メディック メディア

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得 関連用語の理解 診察法の種類 診察の順序 記録の目的と内容
2	第2章 診察の方法	医療面接（病歴聴取）
3		視診 触診 打診 聴診 測定法
4		神経系の診察
5	第3章 生命徴候（バイタルサイン）の診察	体温 脈拍 血圧 呼吸
6	第4章 全身の診察	顔貌、顔色 精神状態 言語 身体測定 体型・体格
7		栄養状態 姿勢と体位 歩行
8		皮膚、粘膜、皮下組織 爪の状態 リンパ節 その他の一般状態
9		中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10	第5章 局所の診察	頭部 顔面 眼 鼻
11		耳 口腔 頸部
12		胸部 乳房
13		肺・胸膜
14		心臓 腹部
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論Ⅰ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	配布プリント、PowerPointを使用します。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指します。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書（履修する範囲）を一度読んでおくようにしてください。配布したプリントの再配布はしないので、なくさないようにしてください。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気がみえる』シリーズ メディックメディア出版

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 感染症	総論、細菌感染症
2	第1章 感染症	細菌感染症、ウイルス感染症
3	第1章 感染症	ウイルス感染症、性感染症
4	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化器疾患	胃・十二指腸疾患、腸疾患
6	第2章 消化器疾患	腸疾患、腹膜疾患
7	第3章 肝胆膵疾患	肝臓疾患
8	第3章 肝胆膵疾患	胆道疾患、膵臓疾患
9		中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患
11	第4章 呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患
12	第4章・第5章	その他の呼吸器疾患・原発性糸球体腎炎
13	第5章 腎・尿路疾患	原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症
14	第5章 腎・尿路疾患	感染症、腫瘍性疾患、結石、前立腺疾患
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	配布プリント、Power Point等を使用します。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指します。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を一度読んでおくようにしてください。配布したプリント等の再配布はしません。なくさないようにしてください。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気がみえるシリーズ』メディックメディア出版

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第11章 神経疾患	脳血管疾患
2	第11章 神経疾患	脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍
3	第11章 神経疾患	脳・脊髄腫瘍、基底核変性疾患
4	第11章 神経疾患	基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症性疾患
5	第11章 神経疾患	認知症性疾患、筋疾患
6	第11章 神経疾患	運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患
7	第11章・第12章	神経痛、機能性疾患、リウマチ性疾患
8	第12章	リウマチ性疾患、膠原病
9	第12章・第13章	膠原病、小児科疾患、一般外科
10	第13章 その他の領域	一般外科、麻酔科
11	第13章 その他の領域	婦人科疾患、皮膚科疾患
12	第13章 その他の領域	眼科疾患、耳鼻科疾患
13	第13章 その他の領域	精神科疾患、心療内科、加齢に伴う病態
14		まとめ
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	鍼灸師としてのリハビリテーションを理解させる。
9. 成績評価	出席、授業態度、ホームワーク、定期試験にて評価する。
10. 受講上の注意	積極的な参加を希望します。
11. 教科書	リハビリテーション医学 第4版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	A. 脳卒中のリハビリテーション	1. 脳卒中とは 2. 評価 3. 急性期のリハビリテーション
2	〃	4. 回復期（急性期後）のリハビリテーション 5. 言語治療
3	〃	6. リスク管理～8. 脳卒中リハビリテーションのゴール
4	B. 脊髄損傷のリハビリテーション	1. 脊髄損傷とは 2. 脊髄損傷による機能障害
5	〃	3. 急性期のリハビリテーション～6. ケアとリスク管理
6	C. 切断のリハビリテーション	1. 切断の原因と分類～5. アフターケア
7	D. 小児のリハビリテーション	2. 脳性麻痺のリハビリテーションの特徴
8	E. 骨関節疾患のリハビリテーション	1. 五十肩～4. 変形性膝関節症
9	〃	5. 変形性股関節症～7. スポーツ障害
10	F. 関節リウマチのリハビリテーション	1. 関節リウマチとは
11	G. 末梢神経障害のリハビリテーション	1. 末梢神経障害とは
12	H. パーキンソン病のリハビリテーション	1) パーキンソン病とは
13	I. 呼吸器疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの意義
14	J. 心疾患のリハビリテーション	1) 心疾患のリハビリテーションとは
15	試験	期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	宮澤 忠藏
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 20021/2022（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	概論。衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の学問領域と学習する意義について把握する。
2	第2章 健康	健康な状態から発病、発病後までの経過を知ることにより、その段階に合わせた予防の基本的な考え方や手法を理解する。さらに、健康管理の重要な手段である集団検診、精密検査の意味について、国民の健康維持のための衛生行政や医療制度の現状についても把握する。
3		
4	第13章 保健統計	国勢調査、人口動態調査などの調査概要、その調査結果から得られる健康指標の意味および現状について理解する。
5		
6	第9章 成人・高齢者保健	人口の高齢化に伴い、成人・高齢者の生活習慣病の発症が医療費増大や介護など社会問題の原因となっている。そこで、生活習慣病の現状と予防、さらに老後のQOLを向上させるための高齢者保健・福祉対策について把握する。合わせて医療保険制度や介護保険制度についても把握する。
7		
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第7章 母子保健	乳児・幼児における健康状況は母体の健康状態が深く影響する。そこで、母子の健康指標と現状、母子保健対策や母子保健法について理解する。
10		
11	第5章 産業保健	労働者は特殊な作業環境に置かれる場合も少なくない。その作業環境の影響による種々の職業病罹患の危険性にさらされている。そこで、職業病の概略と現状、労働安全衛生法、産業保健対策について把握する。
12		
13	第6章 精神保健	精神障害者を社会から隔離する傾向にあったが、人権を尊重し、社会復帰できる体制へと方向転換されてきた。精神障害（精神の病気）の概略と現状、精神保健・福祉対策について把握する。
②		
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	宮澤 忠藏
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。また、国家試験を視野に国家試験形式の問題に対応できるようにする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2021／2022（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第3章 健康とライフスタイル	食生活（栄養素の摂取）が健康や生活習慣病の発症にどのように関係するか、また食品中に混入する微生物や化学物質が食中毒などの疾病の原因になることを把握する。また、生活習慣病や食中毒の予防対策についても把握する。
2		
3	第4章 環境と健康	上・下水道、衣服、居住、食品衛生、栄養、廃棄物処理など日常生活に関連する環境衛生の現状および生活環境対策について把握する。また、人の活動が環境に及ぼす地球環境問題、公害問題についても把握する。
4		
5		
6		
7	第10章 感染症とその対策	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種法）について把握する。
8		
9		
10		
11	第11章 消 毒	消毒の意義、消毒の種類と方法を知ることにより、病原体や対象物を考慮し、院内感染対策など目的に合わせた消毒方法の選択を把握する。
12		
13	第12章 疫 学	疾病は、疾病の発症に関わる要因、原因が解らなければ予防することは出来ない。疫学とは、疾病の要因や原因の究明を目的とした調査研究であり、調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
14		
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	医療概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	我が国の医療制度、医療従事者に求められる倫理等を学ぶことを通じて、医療の概要を理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第2章 現代の医学と医療	・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
2		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
3		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
4		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
5	第3章 医療従事者の倫理	・医療倫理を学ぶ。
6		・医療倫理を学ぶ。
7		・医療倫理を学ぶ。
8		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	あはき師等に関する法令および医療に係る各種の関係法規について理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『関係法規 第7版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	序論 法とは何か 第1章 あはき師等に関する法律	・法の意義、体系を学ぶ。あはき法（法制定の目的、免許等）を学ぶ。
2	第1章 あはき師等に関する 法律	・あはき法（免許、申請等）を学ぶ。
3		・あはき法（業務、届出、設備基準等）を学ぶ。
4		・あはき法（名称制限、広告制限、罰則等）を学ぶ。
5	第2章 関係法規	・医療に係る各種の関係法規（医事法規等）を学ぶ。
6		・医療に係る各種の関係法規（薬事法規、衛生関係法規等）を学ぶ。
7		・医療に係る各種の関係法規（社会福祉関係法規、社会保険関係法規等）を学ぶ。
8		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう理論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	授業はPCを使用して、PowerPointで講義します。授業資料は基本的にiPadで事前に共有します。Ipadで見れるようにします。必要な人に限りプリントを印刷
8. 授業の目標	鍼灸の指針役等とこれを見解するなどの基礎的な生体学の知識を身につけるとともに、1年次で学習した内容を復習し、国家試験に必要な知識を身につける
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業用資料が見れるようにipadは毎日持参すること。
11. 教科書	『はりきゅう理論』 教科書執筆小委員会著 医道の日本社
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野 忠編集主幹 文光堂 『生理学』 公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス』矢野 忠・川喜田 健司編 医歯薬出版株式会社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		鍼灸の術式や道具それぞれが与える体性感覚刺激について
2		感覚総論（種類による受容器・神経線維・伝導路の違い）
3		感覚各論（痛覚）
4		感覚各論（温度覚・触圧覚）
5		熱傷・炎症について
6		体表の反応について
7		鍼鎮痛について
8		鍼鎮痛について
9		鍼灸による皮膚循環、筋循環、心拍数や血圧への影響
10		鍼による運動反射の抑制・消化器への影響
11		鍼の泌尿器への影響・鍼のリラクセーション効果
12		鍼による生体防御機構（免疫）への影響
13		鍼灸施術の治療的作用
14		関連学説について
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	経絡・経穴とは何かを理解する。取穴時の指標となる部位の名称などを覚える。各要穴を覚える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	大体の部位名や東洋医学的用語等、覚えない言葉がたぐり出でます。まずは慣れるようにしましょう。読めない漢字にはふりがなをふるようにしましょう。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学〔経穴篇〕』 天津中医薬大学、学校法人後藤学園（編）東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章経絡・経穴の基礎	経絡経穴概論とはどんな教科か。経絡とは何か。
2	〃	陰陽と五行の概要。1) 経絡について
3	〃	2) 正経十二経脈の流注
4	〃	3) 奇経八脈について
5	〃	4) 経別 5) 絡脈 6) 経筋皮部について
6	〃	4. 経穴の概要
7	第2章経脈・経穴	I. 経穴の取り方に必要な用語
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9	第1章経絡・経穴の基礎	5) 要穴の概略 (1) 五要穴
10	〃	(2) 五腧穴・五行穴
11	〃	(3) 四総穴 (4) 八会穴
12	〃	(5) 八脈交会穴 (6) 交会穴 (7) 下合穴 6) 禁鍼穴・禁灸穴
13	第2章経脈・経穴	III. 奇経八脈

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	東洋医学と経絡について学ぶ
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	PCやタブレットなどを忘れないようにしてください。
11. 教科書	経絡経穴、東洋医学概論
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	全訳 経絡学

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	東洋医学・経絡経穴	東洋医学の概要と経絡について学ぶ
2	人体の構成要素（東洋）	気・血・津液について理解をする
3	経絡の種類・作用	十二経絡、奇経八脈の概要について知る
4	経絡の種類・作用	十二経別、十二皮部の概要について知る
5	経絡と臓腑	経絡と人体の関係について学ぶ
6	人体の構造（西洋医学）	経絡の走行に関係する骨、筋、神経について学ぶ。
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
7	中間試験	中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
8	十二経脈の流注・経絡弁証	肺経・大腸経・胃経・脾経の走行と経絡の異常について学ぶ
9	十二経脈の流注・経絡弁証	心経・小腸経・膀胱経・腎経の走行と経絡の異常について学ぶ
10	十二経脈の流注・経絡弁証	心経・小腸経・膀胱経・腎経の走行と経絡の異常について学ぶ
11	十二経脈の流注・経絡弁証	心包経・三焦経・胆経・肝経の走行と経絡の異常について学ぶ
12	十二経脈の流注・経絡弁証	心包経・三焦経・胆経・肝経の走行と経絡の異常について学ぶ

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	パソコンを使ってPowerPointソフトで説明を行う。学生への資料配布はPDFで配布する。
8. 授業の目標	東洋医学的な臓腑の生理的な見方を理解し、それらの関係性をとらえる。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業で触れたことをしっかりと復習し、自分なりに理解するように努める、疑問を感じたら、積極的に質問をする事。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』
12. 副読本	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』『鍼灸技術ガイドⅠ』
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第2章 第2節 蔵象	蔵象学とは何か。五臓、六腑、奇恒の腑の違い。について
2		肝の生理作用・特性・関連する領域について
3		胆の生理作用・特性。肝と胆の相互関係。肝と関連のある奇恒の腑（女子胞）について
4		心の生理作用・特性・関連する領域について
5		小腸の生理作用・特性。心と小腸の相互関係。心と関連のある奇恒の腑（脈や脳）について
6		脾の生理作用・特性・関連する領域について
7		胃の生理作用・特性。脾と胃の相互関係。
8		中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9		肺の生理作用・特性・関連する領域について
10		大腸の生理作用・特性。肺と大腸の相互関係。
11		腎の生理作用・特性・関連する領域について
12		膀胱の生理作用・特性。肺と大腸の相互関係。

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう適応判断 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義形式、問題演習
8. 授業の目標	基礎を理解し病態を把握する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	タブレットなどを忘れない。
11. 教科書	解剖学、経絡経穴、東洋医学臨床論など
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	整形外科、問題演習	絞扼性疾患、四択の問題演習
2	整形外科、問題演習	絞扼性疾患、四択の問題演習
3	整形外科、問題演習	腰疾患、四択の問題演習
4	整形外科、問題演習	腰疾患、四択の問題演習
5	整形外科、問題演習	上肢疾患（肩、上肢など）、四択の問題演習
6	整形外科、問題演習	上肢疾患（肩、上肢など）、四択の問題演習
7	整形外科、問題演習	頸部疾患、四択の問題演習
8	整形外科、問題演習	頸部疾患、四択の問題演習
9	整形外科、問題演習	下肢疾患、四択の問題演習
10	整形外科、問題演習	下肢疾患、四択の問題演習
11	整形外科、問題演習	その他の疾患、四択の問題演習
12	整形外科、問題演習	その他の疾患、四択の問題演習
13	整形外科、問題演習	その他の疾患、四択の問題演習
14	整形外科、問題演習	その他の疾患、四択の問題演習
15	期末試験	期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	東洋医学的な診断法と西洋医学的な診断法を理解する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	覚える事が多い様に見えますが、理解すること、感覚でわかる事に注視して下さい。
11. 教科書	『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 総論	東洋医学臨床論とはどんな科目か。治療の原理・原則 カルテの記載
2	第2章 各論	第1節 疼痛Ⅰ. 概説Ⅱ. 頭痛
3		Ⅲ. 顔面痛
4		Ⅳ. 関節痛
5		Ⅴ. 頸肩腕痛Ⅵ. 上肢痛
6		Ⅶ. 肩関節痛
7		Ⅷ. 腰下肢痛Ⅸ. 腰痛
8		Ⅹ. 下肢痛ⅩⅠ. 膝痛
9		中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
10		ⅩⅡ. 胸痛
11		ⅩⅢ. 腹痛
12		第2節 臓腑と関連する症候2-1肝系統Ⅰ. 眼精疲労Ⅱ. 気分障害（うつ状態）

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等11年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	東洋医学の身体観に基づく診察法及び診察から治療に至る過程の基礎を理解する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『鍼灸学（基礎篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第4章 四診	・四診の概要、望診（主に舌診）を学ぶ。
2		・望診（主に舌診）を学ぶ。
3		・望診（主に舌診）、聞診を学ぶ。
4		・東洋医学的な問診（主訴、基本的問診事項）を学ぶ。
5		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。
6		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
8		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
9		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
10		・切診（反応、腹診、切経、脈診等）を学ぶ。
11		・切診（主に脈診）を学ぶ。
12		・弁証方法の概要、八綱弁証、気血津液弁証及びそれらの病証に対する治法を学ぶ。
13		・臓腑弁証（肝・心・脾胃等）及びそれらの病証に対する治法を学ぶ。

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等1年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	飯田 あずさ
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	これまで学んだ経穴について復習し、より理解を深め幅広い応用問題に対応できる能力を身に着ける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	配布資料・配布問題は各々の分かりやすいようにまとめ保管すること
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』東洋療法学校協会 医道の日本社、配布資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	ガイダンス、臓腑・経絡①	授業ガイダンス、臓腑・経絡について（概要、流注）
2	臓腑・経絡②、取穴	臓腑・経絡について（奇経、経筋、皮部）、骨度法と同身寸法
3	要穴①	五要穴の概要、取穴①
4	要穴②	五要穴の概要、取穴②
5	要穴③	五腧穴・五行穴の概要、取穴
6	要穴④	四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴の概要、取穴
7	体幹の経穴	腹部・背部の横並び
8	頭顔面部の経穴	筋、神経、動脈拍動部、横並び、他経との位置関係
9	上肢の経穴	筋、神経、動脈拍動部、横並び、他経との位置関係
10	下肢の経穴	筋、神経、動脈拍動部、横並び、他経との位置関係
11	復習・まとめ	これまでの復習と模試の成績の傾向から振り返りをする
12	主要な経穴①	出題されやすい経穴について復習、まとめ
13	主要な経穴②	出題されやすい経穴について復習、まとめ
14	全体のまとめ	重要な箇所や躓きやすい箇所を中心に復習を行い理解を深める
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	社会鍼灸学 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	講義、問題演習
8. 授業の目標	地域における鍼灸師の立場・役割を理解し、それに必要な知識を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	常に必要な教科書を準備し、問題に対し真摯に取り組む。また、期日までにしっかりと課題を行っていく。
11. 教科書	『社会あはき学』 医道の日本社 『臨床医学総論』・『臨床医学各論』 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	あはき師を取り巻く環境	医療制度と現状
2	地域で期待されるあはき師の業務	施術所におけるあはき治療
3	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
4	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
5	現在社会におけるあはき師の役割	感染症についての解説・問題演習
6	現在社会におけるあはき師の役割	消化器疾患についての解説・問題演習
7	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
8	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
9	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
10	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
11	現在社会におけるあはき師の役割	腎尿路疾患についての解説・問題演習
12	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
13	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
14	現在社会におけるあはき師の役割	整形外科疾患についての解説・問題演習
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼治療の基本的な知識を学び、体の様々な部位に安全に目的の深さや角度で刺鍼できる技術を身につける。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCを着用し、身だしなみを整える。準備や後片付けをしっかりと行う。
11. 教科書	『はりきゅう理論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版』尾崎昭弘著 医歯薬出版（株）
12. 副読本	『新版 経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野忠編集主幹 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章、第2章、第7章2.	はりきゅう理論p1～8、p34～35
2	第3章	はりきゅう理論p9～14
3	第4章	はりきゅう理論p15～20、片手挿管
4	第3章	はりきゅう理論p9～14、片手挿管、刺鍼練習
5	第3章	はりきゅう理論p9～14、片手挿管、刺鍼練習
6	第3章	はりきゅう理論p9～14、片手挿管、刺鍼練習
7		片手挿管、刺鍼手技の確認
8		中間試験／まとめ
9	第7章1. 2.	はりきゅう理論p29～38
10	第7章3.	はりきゅう理論p39～43
11		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
12		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
13		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p191（大腿部／下腿部）
14		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
15		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
16		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p191（大腿部／下腿部）
17		まとめ
18		期末試験
19		試験の振り返り
20		まとめ

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	お灸についての知識と技能の取得
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	KCや実技道具・タブレット等を忘れないでください。
11. 教科書	配布資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	はり灸理論、鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	お灸の体験	お灸とは何なのか、どのような効果があるのかを学ぶ。 お灸の種類や方法、手技などについて知識を取得する。
2	お灸の基礎	艾・艾の生成について。知熱灸の実技。
3	お灸の基礎	灸法の種類について。知熱灸の実技。
4	お灸の基礎	灸法の種類について。知熱灸の実技。
5	お灸の基礎	灸の手技について。知熱灸の実技。
6	お灸の基礎	線香について。知熱灸の実技。
7	お灸の基礎	お灸の効果について。知熱灸の実技。
8	中間試験	中間試験 配布資料内から出題
9	お灸の基礎	お灸の刺激量について。知熱灸の実技。
10	お灸の基礎	熱量の調節について。知熱灸の実技。
11	お灸の基礎	熱の受容器について。知熱灸の実技。
12	お灸の基礎	火傷について。知熱灸の実技。
13	お灸の基礎	火傷について。知熱灸の実技。
14	お灸の基礎	火傷の処置について。知熱灸の実技。
15	お灸の基礎	お灸の過誤について。知熱灸の実技。
16	お灸の基礎	知熱灸の実技。
17	お灸の基礎	知熱灸の実技。
18	定期試験	定期試験 実技試験
19	お灸の基礎	自分への施灸
20	お灸の基礎	自分への施灸

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼・灸をすると身体にどんな変化をもたらし、治療につなげていくのかを考える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	東洋医学臨床論と連動するが、実技では主に西洋医学的観点から考えていく。
11. 教科書	『東洋医学臨床論（はりさ灸）編』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 経絡・気血・脈論 第9版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		肩甲骨内縁、ヤコビー線、第12浮肋骨先端を正しく触れて刺入できるか。
2		頭痛に対する治療法
3		顔面痛に対する治療法
4		関節痛に対する治療法
5		頸肩腕痛と上肢痛の治療法（頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群、末梢神経障害、野球肘、テニス肘、狭窄性症候群）
6		肩関節痛に対する治療法
7		腰下肢痛と腰痛に対する治療法
8		下肢痛と膝痛に対する治療法
9		中間試験
10		上肢に対する徒手検査と診断
11		胸痛に対する治療法
12		腹痛に対する治療法
13		眼精疲労と気分障害（うつ状態）に対する治療法
14		めまいと動悸・息切れに対する治療法
15		血圧異常と睡眠障害に対する治療法
16		下肢に対する徒手検査と診断
17		今までの総復習
18		期末試験
19		検査と診断
20		診断と治療

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	身体診察、テスト法を理解し、実施できる。また、疾病の成り立ちについて理解し、適切な身体診察、テスト法、治療法を行える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	指示以外のことは実施しない。
11. 教科書	『診察と手技がみえる 1』メディックメディア 『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	医療面接	医療面接とは
2	医療面接	医療面接の実際
3	身体診察法	バイタルサイン
4	身体診察法	バイタルサイン、血圧測定
5	身体診察法	神経の伝導路、神経診察法（表在感覚、深部感覚）
6	身体診察法	神経系診察法（複合感覚、反射検査、自律神経反射）
7	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
8		中間試験
9	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
10	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
11	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
12	徒手検査法	肩関節の徒手検査法
13	肩関節疾患	五十肩の病態把握・診断方法
14	肩関節疾患	五十肩の治療法
15	肩関節疾患	野球肩の病態把握・診断方法
16	肩関節疾患	野球肩の治療法
17		期末試験
18	徒手検査法	肘部・手関節の徒手検査法
19	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎、変形性肘関節症、野球肘、手指の変形性関節症の病態把握・診断方法
20	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎の治療法

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	人体の構造を学習し、テーピング・ストレッチ、鍼灸施術などの技術を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	使用する用具や着替え・タブレット等を忘れない事。
11. 教科書	配布資料
12. 副読本	解剖学、基礎から学ぶスポーツテーピング、アスリートケアマニュアル等
13. 推薦参考図書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上・下肢の筋と外傷	筋について基礎を深め、外傷について学習する。
2	上・下肢の筋と外傷	筋について基礎を深め、外傷について学習する。パルスの使用方法
3	下肢（基礎から施術）	下腿・足関節のストレッチ・トレーニング等
4	下肢（基礎から施術）	下腿・足関節のテーピング実習等 基礎・実技
5	下肢（基礎から施術）	下腿・足関節のテーピング実習等 実技
6	下肢（基礎から施術）	下腿・足関節の評価と鍼灸施術 パルス
7	下肢（基礎から施術）	膝・股関節のストレッチ、トレーニング等
8	下肢（基礎から施術）	膝・股関節のテーピング実習等 基礎・実技
9	中間試験	中間試験 筆記
10	下肢（基礎から施術）	膝・股関節の下腿・足関節のテーピング実習等 実技
11	下肢（基礎から施術）	膝関節・下腿の評価と鍼灸施術 パルス
12	上肢（基礎から施術）	頸・肩関節関節のストレッチ・トレーニング等
13	上肢（基礎から施術）	頸・肩関節関節のテーピング実習等 基礎・実技
14	上肢（基礎から施術）	頸・肩関節の評価と鍼灸施術 パルス
15	上肢（基礎から施術）	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等
16	上肢（基礎から施術）	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等
17	上肢（基礎から施術）	肘関節・手指の評価と鍼灸施術
18	期末試験	期末試験 実技
19	その他	鍼灸施術 パルス
20	その他	鍼灸施術 パルス

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	行田 直人
7. 授業形式	実技室にて実習を行う
8. 授業の目標	五刺、九刺、常用穴刺鍼および施灸を再理解し、各種疾患に関する鍼灸施術を 実践理解できることを目標とする
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	鍼灸具および教科書を毎回持参すること
11. 教科書	『図解鍼灸臨床手技マニュアル（第2版）』医歯薬出版株式会社 および適時 配布資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	刺鍼手技について	単刺・置鍼・回旋・雀啄術等、現行の刺鍼手技を実践し再理解する
2	五刺について	五刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
3	九刺について	九刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
4	背部常用穴刺鍼	背部の刺鍼法・灸法を実践再理解し背部穴を用いる疾患を理解する
5	腰殿部常用穴刺鍼	腰殿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し腰殿部穴を用いる疾患を理解する
6	肩部常用穴刺鍼	肩部の刺鍼法・灸法を実践再理解し肩部穴を用いる疾患を理解する
7	上腕部常用穴刺鍼	上腕部の刺鍼法・灸法を実践再理解し上腕部穴を用いる疾患を理解する
8	前腕・手部常用穴刺鍼	前腕・手部の刺鍼法・灸法を実践再理解し前腕・手部穴を用いる疾患を理解する
9	大腿部常用穴刺鍼	大腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し大腿部穴を用いる疾患を理解する
10	膝部常用穴刺鍼	膝部の刺鍼法・灸法を実践再理解し膝部穴を用いる疾患を理解する
11	下腿部常用穴刺鍼	下腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し下腿部穴を用いる疾患を理解する
12	足部常用穴刺鍼	足部の刺鍼法・灸法を実践再理解し足部穴を用いる疾患を理解する
13	胸腹部常用穴刺鍼	胸腹部の刺鍼法・灸法を実践再理解し胸腹部穴を用いる疾患を理解する
14	頭頸・顔面部常用穴刺鍼	頭頸・顔面部の刺鍼法・灸法を実践再理解し頭頸・顔面部穴を用いる疾患を理解する
15	総合復習1	肩部・腰部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
16	総合復習2	膝・足部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
17	総合復習3	内科的疾患（肺・胃腸系）に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
18	総合復習4	六部定位脈診を用いた各種疾患の考え方の例を理解する
19	まとめ	これまでの実技内容から実技評価のポイントを理解する
20		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等15年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	良導絡の理論を知り、理論に基づき測定、診断、治療方針を立て治療することを目指す。美容鍼灸の基本手技を学び実施できるようになることを目的とする。
9. 成績評価	單元ごとの試験と期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	5分の4以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『良導絡 自律神経調整療法 基礎編』日本良導絡自律神経学会 学術部篇 『よくわかる美容鍼灸』上田隆勇著 三和書籍
12. 副読本	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	良導絡自律神経調整療法	良導絡についてP2、P19 測定方法P40～P46 良導点・反応良導点P22-23 カルデへのプロットP47
2		良導絡について、経絡との相違点P24、P26 異常良導絡、生理的範囲P48、49、50
3		平均電流量についてP51、52 EAP鍼について鍼の使い方
4		興抑調整についてP60-61 良導絡症候群についてP52～59不問診
5		基本調整法についてP62-63 EAP鍼についてP64 通電について
6		直流電気鍼とはP32-35 反応良導点治療についてP6568 刺激についてP68-74
7		一連の治療の流れを行う
8		一連の治療の流れを行う
9	試験	良導絡自律神経調整療法の試験
10	美容鍼灸	美容鍼灸の概論 全身治療
11		各論 ほうれい線・口角下端のたるみ
12		顔は心と体を映し出す 各論 笑いじわ
13		よく見るスキントラブル1 各論 ほうれい線の上端のしわ
14		しわに対するアプローチ 各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
15		各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
16		よく見るスキントラブル2 各論 眼瞼下垂・眉間・鼻根のしわ
17		肌のトラブル 各論 前額のしわ、たるみ フェイスラインのたるみ
18		復習
19	試験	期末試験
20		復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等11年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人，菊地 裕一
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	経脈の流注、経穴の名称および部位を覚え、体表面から実際の経穴を取穴できるようにする。経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	実技室を使用する際はKＣを着用し、適宜、ショートパンツ等を用意すること。東洋医学特有の用語や漢字に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学（経穴篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王曉明(著) 医歯薬出版 『ツボ単』 形井秀一，高橋研一(監) NTS

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 経脈経穴の基礎	経穴の概要、取穴実技の概要
2	第1章 経脈経穴の基礎	骨度法、体表指標
3	第2章 経脈・経穴	骨度法、体表指標
4	第2章 経脈・経穴	要穴（原穴）の経穴名、部位、取穴
5		要穴（原穴）の経穴名、部位、取穴
6		要穴（四総穴・八脈交会穴）の経穴名、部位、取穴
7		要穴（四総穴・八脈交会穴）の経穴名、部位、取穴
8		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陰肺経）
9		中間試験
10	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陰心経・手厥陰心包経）
11		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手陽明大腸経）
12		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陽小腸経）
13		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）
14		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）
15		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）
16		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）
17		期末試験（取穴実技）
18		期末試験（筆記）
19	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）
20		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）

2022年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良美歩他
7. 授業形式	講義及び演習・実習
8. 授業の目標	治療院実習に向けての準備及び実習を実施する。
9. 成績評価	出席及び提出物を中心に評価をする。
10. 受講上の注意	必要なものや服装は事前に連絡します。事前準備・確認をしっかりとって臨んでください。
11. 教科書	その都度指示します。
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		3年生症例 検討・調査
2		2症例説明
3		医療面接1・2
4		MOS
5		2症例説明
6		医療面接3
7		消毒法
8		東洋的な診察について
9		2症例説明
10		エゴグラム
11		消毒法 復習
12		医療面接4
13		医療面接について
14		医療面接演習 4人グループで5分撮影（1人目）、（2人目） グループワーク
15		医療面接演習 4人グループで5分撮影（3人目、4人目）、 グループワーク
16		治療院見学実習 説明
17		治療院の準備と片付け
18		治療院の準備と片付け
19		新聞記事の発表
20		診療記録について・治療院のカルテ確認
21		医療面接→カルテに記入する
22	治療院実習	鍼灸治療院での見学実習
23	治療院実習	鍼灸治療院での見学実習
24	治療院実習	鍼灸治療院での見学実習
25	治療院実習	鍼灸治療院での見学実習
26		実習参加して気づいたことグループワーク
27		2年生の臨床実習について

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡をします。
8. 授業の目標	介護実習や外部実習など臨床の幅を広げる知識・技術を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席です。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出する事。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		外部実習ガイダンス
2		介護実習ガイダンス
3		介護保険について
4		画像診断
5		画像診断
6		画像診断
7		画像診断
8		画像診断
9		画像診断
10		外部実習に向けたストレッチ講習
11		Jリーグ担架救護
12		Jリーグ担架救護
13		介護実習
14		介護実習
15		介護実習
16		
17		
18		
19		
20		

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡をします。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席です。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出する事。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		臨床実習 実技試験 ガイダンス
2		OSCE練習会 事前ガイダンス
3		第3学年とのOSCE合同練習会
4		実技試験の練習（対人刺鍼・10分間施灸）
5		実技試験の練習（対人施灸・10分間施灸）
6		治療院実習 事前ガイダンス
7		症例発表会
8		実技試験の練習（取穴・10分間施灸）
9		治療院見学実習
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等11年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人、他
7. 授業形式	実習および症例検討
8. 授業の目標	・本実習は3年間の総まとめとして、直接、外来患者に接することを通じて、授業で学習した知識、技能、態度を臨床現場で統合することを目指す。 ・鍼灸臨床の知識・技術を生かして障害部位、反応点等を把握し、病態の適・不適の判断や経過・予後の状況等について附属治療院で実習経験することを目的とする。
9. 成績評価	実習および症例検討によるレポートの提出等により総合的に評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCあるいは白衣を着用すること。指輪、ネックレス、マニキュア、茶髪の禁止等、学生規則に則った身だしなみであること。携帯電話の使用禁止。原則として遅刻は認めない。諸事情により欠席する場合は必ず連絡を入れること。
11. 教科書	各自必要な教科書を準備すること。
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		ガイダンス、症例検討①
2		ガイダンス、症例検討②
3		治療院見学・補助
4		治療院見学・補助
5		治療院見学・補助
6		治療院見学・補助
7		治療院見学・補助
8		治療院見学・補助
9		治療院見学・補助
10		治療院見学・補助
11		治療院見学・補助
12		治療院見学・補助
13		治療院見学・補助
14		治療院見学・補助
15		治療体験シミュレーション①
16		治療体験シミュレーション②
17		治療院見学・補助、体験患者への施療（問診から施療、カルテ作成）
18		治療院見学・補助、体験患者への施療（問診から施療、カルテ作成）
19		治療院見学・補助、体験患者への施療（問診から施療、カルテ作成）

20	治療院見学・補助、体験患者への施療（問診から施療、カルテ作成）
----	---------------------------------

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等15年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	あはき師の歴史を知り、現代の課題を理解する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。配布資料は授業時に持参をしてください。
11. 教科書	『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『針灸の歴史 悠久の東洋医術』 あじあブックス大修館書店
13. 推薦参考図書	『日本医療史』 新村拓 吉川弘文館

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	あはき史について	医学史の意義 はり・きゅうの起源
2	古代の医学と医療	東洋の医学と医療
3	古代の医学と医療	東洋の医学と医療
4	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
5	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
6	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
7	近世の医学と医療	東洋の医学と医療
8	近世の医学と医療	東洋の医学と医療
9		中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
10	近代の医学と医療	東洋の医学と医療
11	近代の医学と医療	東洋の医学と医療
12	近代の医学と医療	東洋の医学と医療
13	現代の医学と医療	現代医学の課題 西欧近代医学
14	現代の医学と医療	現代医学の課題 東洋医学 現代のはり師きゅう師の現状
②	統合教育科目Ⅰ	総復習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	演習
8. 授業の目標	経穴の取穴に必要な人体の骨・筋の位置や名称を把握することを目的とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る 色鉛筆を用意してください。
11. 教科書	『解剖学』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『ネッター解剖学アトラス』 南江堂 解剖学ワークブック
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	『ネッター解剖学カラーリングテキスト』 南江堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	上肢	上肢帯 上腕の骨
2		前腕の骨
3	下肢	下肢帯の骨
4		大腿の骨
5		中間試験対策
6		復習
7		中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
8		下腿の骨
9		足の骨
10		足の骨
11		手の骨
12		手の骨
13		期末試験対策
14		期末試験対策
②	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅰ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 Ⅰ部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	塩野拓人 他
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に中間試験・校内模試の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	欠席しないこと（欠席する場合は事前に連絡すること）。 提出物は必ず提出すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		総復習
4		総復習
5		総復習
6		総復習
7		校内模試
8		校内模試
9		授業と振り返り授業
10		授業と振り返り授業
11		授業と振り返り授業
12		授業と振り返り授業
13		授業と振り返り授業
14		授業と振り返り授業
15		授業と振り返り授業
16		授業と振り返り授業
17		総復習
18		総復習
19		総復習
20		総復習
21		総復習
22		総復習
23		総復習
24		総復習
25		総復習
26		定期試験
27		振り返り授業
28		振り返り授業
29		振り返り授業
30		振り返り授業
31		振り返り授業
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業
35		振り返り授業
36		振り返り授業
37		振り返り授業
38		振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	石丸幸宏、ほか
7. 授業形式	座学、演習
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	各科目の理解を深め、4択問題に対応できるように準備する。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		校内模試
2		校内模試
3		解説作成
4		総復習
5		総復習
6		総復習
7		校内模試
8		解説作成
9		授業と振り返り授業
10		授業と振り返り授業
11		授業と振り返り授業
12		授業と振り返り授業
13		授業と振り返り授業
14		授業と振り返り授業
15		授業と振り返り授業
②		授業と振り返り授業
17		総復習
18		総復習
19		総復習
20		総復習
21		総復習
22		総復習
23		総復習
24		総復習
25		期末試験
26		振り返り授業
27		振り返り授業
28		振り返り授業
29		振り返り授業
30		振り返り授業
31		振り返り授業
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1 B
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントを中心に授業を進める。教科書も一部参考にする。
8. 授業の目標	国家試験に全員合格できることを目指し授業をする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。授業内容は丸暗記ではなくなるべく仕組みを理解するように。 iPadを必ず持参すること。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医歯薬出版
12. 副読本	無し
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第6章	進行性病変
2	第6章	進行性病変
3	第6章	進行性病変
4	第6章	進行性病変
5	第4章	循環障害
6	第4章	循環障害
7	第4章	循環障害
8		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1 A
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1 部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津 慶子
7. 授業形式	講義と演習
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力を身につける
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書（時に解剖学も含む）を必ず持参すること
11. 教科書	生理学（医歯薬出版）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル（桐書房）

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	循 環	血圧の調節（4択演習を含む）
2	泌尿器	腎機能と内分泌（4択演習を含む）
3	呼 吸	呼吸の調節（4択演習を含む）
4	体 温	体温の調節（4択演習を含む）
5	代 謝	代謝（4択演習を含む）
6	内分泌	内分泌（4択演習を含む）
7	生 殖	性周期（4択演習を含む）
8		期末試験

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ-5
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩、他
7. 授業形式	鍼灸国家試験に向けて国家試験と同様の形式の模擬試験を行う。
8. 授業の目標	国家試験合格のために、問題数や解答方法、出題傾向に慣れ、対応できるようになる。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に模試の日程を確認し、事前に欠席しなければならない場合は欠席届を提出すること。 模擬試験当日に、欠席せざる負えなくなった場合は、試験開始時間前に鍼灸科校舎に電話をすること。
11. 教科書	国家試験に出題される科目すべての教科書や参考書
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		校内模試
2		校内模試
3		合同模試
4		合同模試
5		校内模試
6		校内模試
7		論文大会
8		合同模試
9		合同模試
10		校内模試
11		校内模試
12		校内模試
13		校内模試
14		合同模試
15		合同模試
16		後期期末試験
17		後期期末試験
18		校内模試
19		校内模試
20		合同模試
21		合同模試
22		校内模試
23		校内模試

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等11年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義 その他
8. 授業の目標	研修や学会等に取り組み、学校での交流・業界への理解を深めることを目的とする。
9. 成績評価	出席状況、課題・レポートの提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	欠席しないこと（欠席する場合は事前に連絡すること）。 提出物は必ず提出すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		ICT研修会①
2		ICT研修会②
3		講演会
4		講演会
5		校内学術論文大会
6		校内学術論文大会
7		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座①
8		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座②

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小野かおり、石丸幸宏、ほか
7. 授業形式	各日程の前に事前に連絡します。
8. 授業の目標	卒業生講演、学会参加、学術大会、ウィンタースポーツ実習、解剖見学実習などの多様な学びの機会に積極的に参加し見識を広げ、将来を意識した学びの場とする。また、国家試験レベルの模擬試験問題の解説作成をグループで行い、国家試験や意識した学びをクラスメイトと共有することを目標とする。
9. 成績評価	出席率を中心にレポートなどの提出物の提出状況や内容等で総合的に評価する。
10. 受講上の注意	外部の方が来校される際や外部の施設を利用する際は、基本的に制服（白シャツ、ジャケット、校章、ネクタイ又はリボンの着用）を正しく着こなす事。原則、すべて出席とする。やむを得ない理由で欠席する場合は、出来るだけ早い時期に申し出ること。
11. 教科書	模擬試験の問題解説で必要となる教科書
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		第1回校内模擬試験 問題解説作成
2		卒業生講演
3		学術論文大会
4		解剖見学実習（福島県立医大）
5		解剖見学実習（福島県立医大）
6		卒業生講演 ・ 第3回校内模擬試験 問題解説作成
7		全日本鍼灸師学会 東北支部 講座参加
8		ウィンタースポーツ実習

2022年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床研修 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等15年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	台湾の中医薬大学にて講義または、臨床施設見学等
8. 授業の目標	日本と環境の違いや中医学特有の鍼灸の治療アプローチの違いを感じる。
9. 成績評価	出席とレポート提出によって評価する。
10. 受講上の注意	健康に留意して礼節を大事にし、団体行動を意識して行動する。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	台湾海外研修	台湾の中国医薬大学にて現地の臨床施設の見学や現地の講師による講義の聴講を行う。
2		同上
3		同上
4		同上
5		同上
6		同上
7		同上
8		同上
9		同上
10		同上